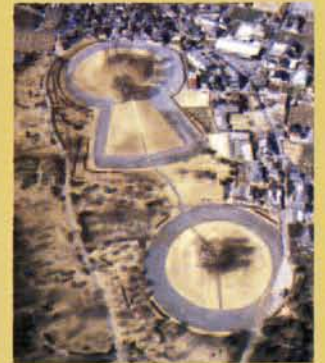




# 銚子塚古墳附丸山塚古墳が2010年 国指定史跡になって 80周年を迎えます。



かつて銚子塚古墳の墳頂にあった伊勢大神



かつて丸山塚古墳の墳頂にあった三碑



三碑を移設した時の説明

皆様大切にされて  
ありがとうございます。  
これからもよろしく  
お願いします。



ちようしくん

1930年(昭和5年)に国指定史跡となりました。

銚子塚古墳の後円部の頂には、かつて伊勢講の石祠と享保20年銘の石灯籠がありました。1928年(昭和3年)に伊勢講四阿屋を建設しようとして石室が発見されたことをきっかけとして、側にある丸山塚古墳とともに指定されたのです。1988年(昭和60年)の整備の際に、石祠と石灯籠は、銚子塚古墳と丸山塚古墳の間に移築されました。また、丸山塚古墳の頂には、天保11年に代官によって書かれた碑があり、「郷民擁護神霊のまし満す所な利うやまへバ則福を・・・」とありました。この石碑は現在、丸山塚古墳の麓に他の2つの碑とともに移されています。

古墳が造られてから江戸時代まで1000年以上の時間が経ちながらも、このように地元の人々から大切に守られて現在に受け継がれているのです。ぜひ、古墳を見学する時には、このような先人たちの思いを振り返りながらまた、後世へとつながって行く時を感じてみてはいかがでしょうか。

なお、80周年を記念してイベントを開催する予定です。詳細はHPをご覧ください。

# 今年度発掘調査された主要な遺跡をご紹介します

## ～確認された住居跡の謎～ 笛吹市御所山(ごしょやま)遺跡

御所山遺跡が所在する笛吹市境川町は、甲府盆地の南東部、北西部の沖積地を除いて大部分が曾根丘陵上に所在しています。曾根丘陵は盆地に向けて大小多数の支丘を突き出し、旧石器～平安時代に渡る数多くの遺跡が存在するなど、古くから極めて良好な生活空間を提供しています。

御所山遺跡は間門川と境川とに挟まれた中央付近の一支丘の先端、中央自動車道下り線境川サービスエリアの背後、標高 317m程に位置します。

調査の結果、調査面積は狭小ではありますが、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、溝状遺構1条、土坑2基や、中世以降の溝状遺構2条、ピット7基が検出されました。確認された遺構からは、台付甕や甕、陶磁器片等や、磨石や石鏃などの石器類が出土しています。

このように、検出された住居跡は1軒ではありますが、本遺跡に隣接する諏訪尻遺跡では同時期の住居跡 25 軒が確認されており、また、直線距離で 1.5 km程にある上の正方形周溝墓や銚子塚古墳を筆頭とする前期古墳が集中する地域と、該期の集落の関わりを考えていく上で重要な遺跡です。

「御所山遺跡空中写真」



## ～初めての調査～ 笛吹市太鼓畑(たいこぼた)遺跡

太鼓畑遺跡は、笛吹市御坂町竹居字太鼓畑に所在します。遺跡周辺は御坂山塊から北流する河川の浸食によって多くの小丘が形成され、縄文時代のヒスイ製垂飾が出土したことで有名な三光(さんこう)遺跡など、数多くの遺跡が存在します。太鼓畑遺跡は三光遺跡の東側に位置し、標高は425m前後です。

調査の結果、縄文時代中期初頭の土器や石器(今から約 5,000 年前)が出土したほか、平安時代(9世紀後半ごろ)の竪穴住居跡 1 軒、時期不明の集石遺構1基などが検出されました。

住居跡はその北側が水路掘削のため消失し、全体の約2/3が残っていました。完存する南側の壁から類推すると一辺が約 4mを測る方形の形になると思われ、東側の壁ではカマドが検出されています。遺物はカマド南側袖部付近で、灯明皿に転用した可能性のある土師器の坏が出土したほか、小刀と考えられる鉄器や炭化種子などが出土しました。



平安時代の竪穴住居跡

## ～御坂峠を望む平安時代のムラ～ 富士河口湖町滝沢(たきざわ)遺跡

滝沢遺跡のある富士河口湖町の河口地区は、駿河国(静岡県)を通過する東海道と甲斐国を結ぶ古代の官道「甲斐路」(「御坂路」と呼ばれる道路が通っていたといわれ、平安時代に都との連絡に使用する馬を用意するための施設「河口駅」(甲斐国三駅の一つ)があったといわれています。遺跡は、御坂山・三ツ峠山の南麓、河口湖の北東部の標高 840m から 850m にかけての御坂峠を望む緩やかな斜面上に立地しています。

今回の調査では、平安時代(9世紀末～10世紀代)の竪穴住居跡 15 軒、集石 1 基、中世以降の掘立柱建物跡 1 棟、土坑 45 基、溝状遺構などが発見されています。住居跡は確認面から床面まで深いところで 60 cm ほどもあり、良好な状態で発見されました。カマドの遺りも良く、中には真っ赤に焼けた土が厚く堆積していました。

これらの住居跡からは、「甲斐型土器」と呼ばれる素焼きの赤い土師器が数多く出土しており、窯で焼かれた灰色の須恵器や釉薬をかけた陶器もあります。中には、墨で文字が書かれたり釘などで記号のような線がつけられた土器も確認されています。また、土器の他に網につける土製の錘(おもり)もあり、近くの川や河口湖で漁をしていたことがうかがえます。小刀や釘・鍬(やじり)などの鉄製品もあります。



真っ赤に焼けた土が残るカマド

## ～近くに大集落!?!～ 南部町原間(はらま)遺跡

南部町本郷に所在する原間遺跡からは、旧石器時代、縄文時代中期後半～後期前半、弥生時代前期後半と後期末、平安時代中期の遺物が発見されました。

遺物の量が多かったのは縄文時代で、石棒や注口土器(土瓶のようなもの)の注口の部分のみといった祭祀的色彩の濃いもの、土器や石錘(網漁に使用する石のおもり)などのように日常的に使用するものなど様々なものが出土しております。

また、平安時代の竪穴住居も発見され、年代は大きく開いていますが、本郷原間の地が縄文時代から平安時代まで人々の生活に適していた場であったことを物語っています。



縄文時代の集石土坑



平安時代の住居跡

## ★埋蔵文化財シンポジウム

「社会を支えた石の技術～成立と展開を考える～」を開催します。

日時 平成22年2月7日(日) 午後1時～4時30分

会場 甲府市中央公民館 2階大ホール

特別講演

### 「社会を支えた石の技術～成立と展開を考える～」

講師 萩原三雄氏(帝京大学山梨文化財研究所所長)

シンポジウム

### 「構築技法の成立と展開そして今に残る技術」

コーディネーター 小野正文(当センター所長)

パネラー

萩原三雄氏(帝京大学山梨文化財研究所所長)

佐々木満氏(甲府市教育委員会)

斎藤秀樹氏(南アルプス市教育委員会)

吉岡弘樹(当センター)

野代幸和(当センター)

どちらも入場無料  
申し込み・お問い合わせは  
山梨県生涯学習推進センター  
電話055-223-1853  
山梨県埋蔵文化財センター  
電話055-266-3016

## ★やまなし再発見講座

シンポジウムの開催に先立ち、下記の講座を実施します。  
あわせてご参加ください。

- 第1回 「古代の石積み」～県内の古墳発掘調査成果を中心に～** 講師:吉岡弘樹 平成22年1月7日(木)  
県内で調査された古墳の横穴式石室の構築技術が地域によって異なることと現代の古墳復元工法をわかりやすく説明します。
- 第2回 「城郭石積み・石垣」～武田氏館跡から甲府城へ** 講師:佐々木満氏 平成22年1月14日(木)  
これまで甲府市が行ってきた、国指定史跡武田氏館跡の史跡整備に伴う調査で蓄積された中世の石積みについて設置方法や条件を探ります。
- 第3回 「治水工事における石積みの姿」** 講師:斎藤秀樹氏 平成22年1月21日(木)  
国の史跡に指定されている将棋頭など堤防の変遷と、本年度調査された後田堰取水口堤防跡より発見された「木工沈床」など最新の事例により、人々の生活を支えた治水について考えます。
- 第4回 「石工をめぐる伝統技術の保存と継承」** 講師:野代幸和 平成22年1月28日(木)  
甲府城の石垣構築技術の謎に、石切り場と石垣工事の関係など他県の事例も含め、石工の伝統技術を紹介しながら甲府城の石垣構築技術の実態に迫ります。

**会場** 山梨県生涯学習推進センター(JA会館 5階)  
県内4合同庁舎(北巨摩合同庁舎・東山梨合同庁舎・南巨摩合同庁舎・南都留合同庁舎)

**時間** 午後2時～4時

### 編集後記

冬真っ盛りを迎えました。  
今回は、国の指定史跡となって80周年を迎える銚子塚古墳附丸山塚古墳と今年度の発掘調査の中から主要な遺跡の紹介をしました。また2月に行われるシンポジウムのお知らせを掲載しました。

山梨県埋蔵文化財センター  
埋文やまなし 第34号  
発行日:2009年12月28日  
編集:山梨県埋蔵文化財センター  
発行:〒400-1508  
山梨県甲府市下曾根町923  
Tel. 055-266-3016  
印刷:榊南堂印刷所